

## 第 18 回 FD フォーラム実施報告

平成 28 年 11 月 2 日 (水)、天白キャンパス共通講義棟東 3 階 H304 教室において、第 18 回 FD フォーラムを開催した。今回は、「高大接続改革の狙いと方向性」をテーマとし、教職員、他大学関係者等 139 名が参加して行われた。

はじめに、吉久光一学長から開会の挨拶があり、続いて、FD 委員長でもある野口光宣副学長から、本フォーラムの趣旨が説明された。

第 1 部では、「高大接続改革の動向について」をテーマに、文部科学省高等教育局主任大学改革官の濱口太久未氏を迎え、社会構造の変化や学生の学力、意識の状況変化を辿りながら、昨年 3 月の三つのポリシーの義務化に関する省令改正とそのガイドラインをはじめ、中央教育審議会の高大接続答申や、高大接続システム改革会議の最終報告において示された高大接続改革のポイントについて解説された。

第 2 部では、「高大接続とアクティブラーニング —協同学習の視点から—」をテーマに、久留米大学文学部教授の安永悟氏による講演が行われた。高大接続を支える教育手法であるアクティブラーニングとして、「協同学習」の意義や効果、活用方法についての紹介とともに、実際に会場にて参加者同士の協同学習の体験を行った。参加者は積極的にディスカッションを行い、会場内は活気に溢れていた。

全体の質疑応答では、本発表に関する多くの質問・意見が寄せられ、活発な議論が行われた。最後に、安藤大学教育開発センター長から、本学の三つのポリシーに基づき、本フォーラムの内容をきっかけとして、協同学習の手法も参考にし、授業改善に繋げてほしいとの纏めをもって、第 18 回 FD フォーラムを閉会した。



高大接続改革の動向について  
解説をされる濱口氏



協同学習の実践前に説明される安永氏